

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2010年
7月号

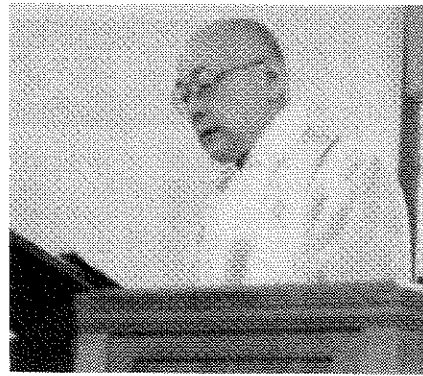
発行所
神戸教区事務所
TEL 078 (351) 5469
FAX 078 (382) 1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

面白い聖書 〜聖書に親しむための一提案〜

司祭 ヨハネ 角 瀬 克 己



聖書に親しんでいますか

映画『レッド・クリフ』の影響なのか、中国の歴史ドラマに興味をもっている人が増えているように思います。わたしも『三国志』、『水滸

伝』などは大好きで、読んでいてワクワクします。

毛沢東は、中国人にそれらを読むよう推奨したと聞いています。それらは聖書に匹敵するほどの内容を持っているという意味で言ったのだそうですが、これについて真偽のほどはわかりませんが、でも毛沢東が想像したほど、聖書が広く親しまれているのかは怪しいように思います。皆さんはそれほど聖書に親しんでおられますか？

講談や演劇の面白さ

わたしはこどもの頃、よ

く講談を聞きました。というより、父が講談好きで、番組で見つけるとよく聞いていましたから、自然に耳に入ってきたのです。特に耳を傾けて聞こうとしていなくても、だんだんと引き込まれ、最後まで聞いてしまったものです。そしてそのうち、知らず識らずのうちに歴史上の人物や出来事が頭に残っていったように思います。

以前、テレビでアレキサンドロスについての特集番組が放映されたことがありますが、その中で、現在でも中東では、アレキサンドロス伝説が、講談で語られたり、影絵で上演されていることが紹介されました。

それを見ながら、聖書の世界も、講談や劇に仕立ててみると面白いのではないか、と思ったのですが、でも考

えてみると、中世ヨーロッパでは盛んに行われていたことを思い出しました。けれども今の教会では、ほとんど行われなくなり、せいぜいクリスマスに子どもたちが聖誕劇を演じるくらいで、出演しているこどもの親だけが関心を示している(と、言っただけは失礼でしょうか?)といったところではないでしょうか。でも本格的にこれをやればなかなか面白いと思うのです。

聖書に親しむ取り組みを

わたしたちが歌っている聖歌の319番は、ヘンデル作曲のオペラ『マカベヤのユダ』の凱旋の合唱ですが、これなどは旧約聖書続編を題材にしています。

一日々聖書を読むこと、幾つかの教会の礼拝堂には、信徒の努めが掲示されていて、こう記されていました。それは言うまでもないことですが、なかなか長続きしないで、出エジプト記あたりで挫折という方が多いよう

に思います。十戒を授与された後は、わたしたちには全く縁のない律法ばかり。うんざりして読み続ける意欲がなくなることはよく分かります。

でもその結果、士師の時代、統一王国、南北時代、滅亡とバビロン捕囚、解放と面白い歴史を知らずにいるとしたら、それは残念だし、宝の持ち腐れです。

これもテレビで紹介されていたことですが、ある高齢者が大半を占める村で、住民が創作劇を演じるという取り組みを始めたところがあるそうです。きっかけは映画のエキストラをしたことだったそうですが、それにハマッてしまったようです。その取り組みはさまざま副産物を生み出し、村の活性化の原動力になっているようです。

教会生活でも、何か面白い取り組みをしてみませんか。

(高松聖ヤコブ教会牧師・高知聖パウロ教会管理牧師)

青年交流会 in 倉敷



カ神父が、40年後に平和会議で語った核廃絶の説教原稿などをもとにして、学びの時を持ちました。

『キリストの平和』をテーマにした説教が聖餐式で語られ、聖書の分かち合いや広島の子供による発題、また従軍チャプレンとして長崎原爆の成功を祈ったザベル

5月3日(明) 5日(水)、『キリストの平和』というテーマで、倉敷伝道所を会場にして青年交流会が行われました。

うどんや、夕食のバーベキューを堪能し、ちょっと早めの花火などを通して、楽しい時間も過ぎました。

この2泊3日を通して、青年たち一人ひとりが『キリストの平和』について想いを巡らせ、心に染み込ませているようでした。

青年交流会を終えて

呼びかけ人 永野 拓也

今回の青年交流会は、8月6日に広島で毎年行われている『広島平和礼拝』に参加する前に、「ただ参加するだけでなく、自分たちで『平和』について少しでも考えてみよう」という趣旨で行われました。

まず初めに、「平和」とは、そして「キリストの平和」とは何かを、一人ひとりが考えて発表する時間がありました。私を含め、ほとんどの参加者が「平和」というものを具体的に表現できませんでした。そして改めて、「キリストの平和」について考える重要性を感じたような気がします。

そこから私たちは、2泊3日の礼拝や発題を通して、「キリス



集い、同世代の仲間と一緒に考えること、それが本当に貴重で大切な時間だったと感じています。だからこそ、これからこの学びをゆくりと深めていきたいと思っています。

青年交流会チャプレン

司 祭 林 和 広

昨年(2009年)の1月から、青年交流会のチャプレンとして、青年たちとの交わりを持たせて頂いております。『祈り、交わり、学び』をお互いに持ち合う機会を持つというのを念頭において活動しております。

自分自身を見つめ直す時

今回は、キリストの平和という言葉に焦点を絞り、分かち合う時間を過ごしました。何か一つの答えを出すという事ではなく、礼拝や学びを通して、一人ひとりが自分自身を見つめ直す時間を取ることになりました。

一人の人間の内にいる平安が崩され、次第に増大した結果、

大きな争いとなっていく。偉大な宗教家の人々が指摘するところ。広島平和礼拝への事前学習だけでなく、日々の生活の中においても、キリストの平和の内に過すということがどのような事なのかを考える時でもありました。

空間作りが大切

毎回、青年の集いを開催する度に、青年たちが互いに声を掛け合っている姿が印象的です。初めて参加する青年たち、また、忙しくてなかなか参加できなかったけど、時間を作って参与してくれた青年たちがいました。

「出会う場所」、「戻って来れる場所」、「共に祈り、学び、分かち合う場所」、そうした場所作りを備え、継続していくことが青年交流会だと感じています。忙しくて参加できない青年たちを覚えて祈ります。地道に青年たちと「共に集う場所」を備え、青年交流会が継続しているよう願い、求めております。多くの皆様のお支えと祈りに感謝しております。今後も青年たちのために祈ってください。

今回、参加してくれた青年の皆さん、礼拝奉仕・説教を担当してくれました中原司祭、長田司祭、また、色々サポートしてくれた倉敷伝道所の信徒の方々に感謝いたします。

(福山諸聖徒教会管理牧師・倉敷伝道所管理牧師)

ここ数年、私は「出会い」という事について考えさせられるようになりました。「出会い」というと、何かドラマティックな一回限りの出会いがあつて、それが一生を左右するようなイメージもありますが、「出会い」を繰り返すうちに、その意味が深まっ

て行く場合も多いと思うようになったのです。タイトルとして掲げた言葉は、ルカ福音書の5章にあるシモン・ペトロと主イエスの対話の中にあります。

この記事によりまずと、イエスは先ずペトロの持ち舟に乗って岸から少し離れた所から群集に説教され、その後ペトロに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」(新共同訳)と命じられ、その通りにすると、多くの魚がとれたのを見て、ペトロが、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言ったというのです。

イエスはペトロに「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」と有名な召命の言葉を語られ、ペトロは仲間のヤコブ、ヨハネと共にすべてを捨ててイエスに従ったという個所

です。

この召命物語はマルコ1章16節以下とマタイの4章18節以下では、大漁の挿話もなく、簡単で、ほぼ同じ形で語られています。イエスの呼びかけに応じて、すぐに網も舟も親も捨てて、イエスの後に従った、とありますので、読者が、い

深みに漕ぎ出し、網を降ろせ

政 道 中 司 祭

ささか 嘩然とするほど、その動機や内心について何も語られていません。

ルカ伝の方は、奇跡的な大漁を見たペトロが、イエスの聖なる力を見て、突然、自分の罪の深さを意識した

から、若干納得が行きます。ところで「沖に漕ぎ出して」という新共同訳は宣教百五十年の特権にも引用されていますが、かつての文語訳では、「深み」と訳されており、英訳ではどの訳でも deep という語を使って訳されています。

「沖」という語は「深み」よりわかりやすいかも、知れませんが少々「深み」に欠ける感じがします。

この後、マルコ8章29節とルカ9章20節では、主イエスは弟子たちに「あなたがたは私を何者だというのか」と問ひかけ、ペトロが「あなたはメシアです」と答えています。マタイ16章18節以下では、ペトロの信仰告白に続いて主イエスは「あなたはペトロ、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てるとまで言われているのです。

しかし、主イエスは十字架の受難の前夜、ペトロに向かつて、「今夜、鶏が啼く前に3度わたしを知らないと言うだろう」と告げます。ペトロはそんな事はないと否定しますが、事実はその通りになります。

ペトロは、その鶏の3度啼く声を聞いて、号泣するのです。人間の限りの弱さを示すペトロの姿は、私たちの姿でもあります。小さな自負やプライドを捨て、人生の「深み」において、謙虚に出会いを重ねる事が、「天国への階段」に通じる道ではないでしょうか。

西四国伝道区 信徒修養会

司 祭 オーガスチン 與賀田 光 嗣

マザー・テレサは生きています

4月29日(木・祝)に、高知聖パウロ教会で、西四国伝道区信徒修養会が行われました。

マザー・テレサ生誕100年を記念して、マザー・テレサの下におられた片柳弘史神父様(カトリック六甲教会)をお招きし、「マザー・テレサは生きています」というテーマでお話をしていただきました。

参加者は50人を越し、聖公会以外の方も来会されました。

お話の前半では、学生時代の片柳神父様が、どのように神様と出会い、マザー・テレサの下でボランティアをされるようになったかを、マザーとの出会いの中で、どのように神父としての献身へ至るようになったかを、お話されました。

お話の後半では、マザーを通して、神様の愛の意味や、主イエスに従うことの意味をお話されました。とくに、なによりも沈黙の大切さを強調されていたことが印象的です。

その時いただいた資料の中に、次のマザーの言葉がありました、「沈黙の実は祈り、祈りの実は信仰、信仰の実は愛、愛の実は奉仕、奉仕の実は平和」。

「すべてのことは祈りから始まります。」 私たちにとって、とても大切なことを学べた、とても良い機会でありました。



マザーとの出会いを感慨深く語る 片柳弘史神父

鳩だより

〈敬称略〉

ご逝去

5月4日(木) ハンナ 菊池悦子(90歳)
神戸聖ベテロ教会

教籍移動

4月30日(金) ラケル 磯田友里子
徳島インマヌエル教会から
東京教区生込聖公会聖バルナバ教会へ

5月3日(月) パウロ 栗山義顕
中部教区岐阜聖パウロ教会から
神戸聖ミカエル教会へ

5月7日(金) ロムアルド 吉井 豊
神戸聖ヨハネ教会から
大阪教区川口基督教会へ

5月31日(月) ソフィア 芳我純子
サムエル 芳我顕司

マリア 芳我恵
ガブリエラ 芳我直
ミカエラ 芳我美
パウロ 芳我誠司
神戸聖ミカエル教会から
姫路顕栄教会へ

徳島伝道区

◎徳島インマヌエル教会
5月27日(木) 婦人会の親睦会が小豆島で開かれ、11人が参加し、交わりを深めました。

5月30日(日) 徳島伝道区合同礼拝・研修会を徳島インマヌエル教会で行いました。講師には教区礼拝音楽担当の原田里香子姉をお迎えし、聖歌の研修と練習をしました。53人参加。

次号予定

巻頭 小林尚明 司祭
管区総会報告、教区オルガニスト
研修会、キャンプ「サバー・トレ」
ニング・キャンプなど。

8月の教区関係教役者

日時 2010年8月12日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式・説教 主教 中村 豊

※ 8月の記念逝去教役者

3日	伝道師	益田 喜代吉
3日	司祭	シドニー スワン
7日	宣教師	エミー K. ウーレイ
9日	宣教師	E. E. トンプソン
14日	司祭	ピーター ジャクソン
17日	司祭	パウロ 古本 正夫
17日	伝道師	野田 璞水
18日	司祭	関 末吉 時信
20日	司祭	ヨハネ リットソン
25日	宣教師	エリザ 村瀬 敬輔
27日	司祭	ダミアン

【訂正】前月号で「7月教区関係者逝去者記念聖餐式の日程」を、7月1日(木)とお知らせしましたが、誤りです。正しくは、7月8日(木)です。お詫びして訂正いたします。

7月11日

海の主日

この主日は各教会で、海で働く人々を覚えて祈り、その人々のために宣教・奉仕をしている「ミッションズ・トゥ・シーフェアーズ(MtS)」の働きのために献金を献げましょう(献金は管区事務所へご送金ください)。

召命黙想会のお知らせ

日時：2010年8月24日(火)〜26日(木)
会場：宝塚「黙想の家」
講師：山野上素充司祭
(大阪教区 守口復活教会牧師)

問合せ先：芳我秀一 司祭
(姫路顕栄教会)

広島平和礼拝2010

テーマ：ともに学び、行動し、そして一步前へ
聖句：平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。

日時：8月5日(木)〜6日(金)
会場：広島復活教会

- 目的：
1. 原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る。
 2. 原爆の悲惨さ・戦争の愚かさを次代を担う人たちに伝える。
 3. 「主の平和」を学び、その実現のために活動する。

行事：祈りのつどい、平和行進、平和祈願ミサ、碑巡り、資料館見学。

参加費：無料
(日程中の食事、簡易宿泊)
自己負担：交通費、ホテル宿泊費、5日の夕食。

申込：各教会から
広島復活教会「広島平和礼拝実行委員会事務教区」へ

締切：7月11日(日) 必着

実行委員長：小林尚明 司祭

日本聖公会神戸教区第47回中高生大会

日程：8月17日(火)〜20日(金)
会場：国立淡路青少年交流の家
テーマ：「道」

講師：Hanna Bunya
(本名：文屋 範奈)

ゴスペルシンガー & シンガーソウルメッセンジャー
*講話予定日時・内容
8月19日(木)9:30〜10:30ころを予定。ゴスペル(歌)とメッセージを通して、今大会のテーマである「道」について語っていただきます

参加費：1万円
申込締切：7月末日

*所属教会の牧師を通してお申込ください。どうぞ奮ってご参加ください。

大会長 八代良寛

*講師プロフィール
大阪府出身。16歳で單身渡米。ジョージワシントン大学大学院安全保障学部卒業。在ワシントンの軍事専門雑誌社に勤務。病気をきっかけに世界平和に加え「心の平和」を考える。幼少から親しんだゴスペル音楽に救われシンガーに転身。ゴスペル音楽を生んだ奴隷制度の歴史や社会の変遷と音楽スタイルを通じ、人権・ジェンダー・国際関係・異文化について各市町村や学校で公演。聴衆の魂(ソウル)を代弁し、伝え、癒す歌唱パフォーマンスを提供し続けている。
神戸教区姫路顕栄教会信徒の野間さんの姪御さんにあたります。